

本能寺の変、原因説

織田家重臣として順調に地位を築いてきた明智光秀は、天正9年（1581）6月2日「明智光秀家中軍法」を定めて、軍の規律や織田信長への忠誠を誓っているが、1年後の天正10年（1582）6月2日、光秀は信長の宿所であった本能寺を襲撃し、主君を討ち果たす。

この事件は「本能寺の変」と称され、戦国期における最大のクーデターとして知られているが、その動機には数多くの説が提唱されている。

■ 光秀単独犯説

明智光秀が、自らの意思で主体的に信長を討つことを決めて、実行したとする説。

I 積極的謀反説

①野望説 ②突発説

II 消極的謀反説

③怨恨説 ④不安説 ⑤ノイローゼ説 ⑥内通露顕説
⑦人間性不一致説 ⑧秀吉ライバル視説

III 名分存在説

⑨救世主説 ⑩神格化阻止説 ⑪暴君討伐説（※信長非道説）
⑫朝廷守護説 ⑬源平交替説

IV 複合説

⑭不安・怨恨説 ⑮怨恨・突発説 ⑯不安・突発説
⑰野望・突発説 ⑱不安・野望説 ⑲怨恨・野望説
⑳複合説

◆ 主犯存在説・黒幕存在説

光秀以外の誰かが実行犯であったり、黒幕となって光秀を使って信長を討ちとったとする説。

I 主犯存在説

⑲羽柴秀吉実行犯説 ⑳斎藤利三実行犯説
㉑徳川家康主犯・伊賀忍者実行犯説
㉒複数実行犯・複数黒幕存在説

II 黒幕存在説

㉓朝廷黒幕説 ㉔羽柴秀吉黒幕説 ㉕足利義昭黒幕説
㉖毛利輝元黒幕説 ㉗徳川家康黒幕説
㉘堺商人黒幕説 ㉙フロイス（イエズス会）黒幕説
㉚高野山黒幕説 ㉛森蘭丸黒幕説

III 黒幕複数説

㉜秀吉・家康・光秀共同謀議説 ㉝足利義昭・朝廷黒幕説
㉞近衛前久・徳川家康黒幕説
㉟毛利輝元・足利義昭・朝廷黒幕説
㊱堺商人・徳川家康黒幕説 ㊲上杉景勝・羽柴秀吉黒幕説
㊳徳川家康・イギリス・オランダ黒幕説
㊴足利義昭・羽柴秀吉・毛利輝元黒幕説

IV 従犯存在説

㊵近江土豪連合関与説 ㊶長宗我部元親関与説
㊷濃姫関与説 ㊸光秀の妻関与説 ㊹羽柴秀吉関与説

● その他

㊺信長の対朝廷対策との関連 ㊻家臣団統制との関連
㊼信長自滅説 ㊽信長不死説

本能寺の変の真相をめぐる諸説（後藤敦氏の整理による）

参考文献 『明智光秀の生涯と丹波福知山』 監修：小和田哲男

※小和田哲男説

■光秀怨恨説 ③

諸侯の前で信長の度重なるいじめを受け、武士の面目をつぶされた光秀が、その恨みから信長を殺害したとする説。以前から唱えられ、通説となっている。

宣教師のルイス・フロイスは、信長は逆上しやすい性格で、光秀を足蹴にしたことを記している。

しかし、伝えられる信長の「いじめ」の多くは、後の江戸時代に書かれたものが出典となっている。

■光秀野望説 ①

光秀には天下を取りたいという野望があったとする説。牢人からのし上がってきた光秀は、信長の重鎮となり、家臣団でトップとなる地位と武力を持った。京都を取り囲む要となる“近江・坂本”、“丹波・亀山”を支配した光秀には、いつでも信長を討てる条件が揃った。隙があれば信長を討って天下を狙うのは、戦国時代では当たりまえの考えであった。

秀吉は遠く備中にあり、柴田勝家も越中にいた。その好機が、信長がわずかな兵とともに本能寺に滞在していた天正10年6月2日であった。

◆長宗我部元親関与説 ⑬

四国制覇を直前にして信長に断交された元親の苦衷を、光秀が察したことが一因となったとする説。

四国で勢力を拡大した元親は、光秀を介して信長と同盟関係にあったが、元親の四国制覇に脅威を感じた信長は、突然、阿波の三好康長を支援した。

また、三好康長は光秀のライバルだった羽柴秀吉と縁戚関係にあった。光秀は元親の苦衷を察するとともに、背後に自分を狙う秀吉の影を見て取って、信長を討つ決意をした。

◆斎藤利三実行犯説 ⑳

斎藤利三は明智光秀の重臣で、四国の長宗我部元親と縁戚関係にあった。利三が、信長の長宗我部討伐を防ぐために光秀をそそのかしたとする説。長宗我部元親なども関与していたとされる。

『言経卿記』の「斎藤蔵助、今度謀反随一也」という一文を根拠としている。利三は山崎合戦の後捉えられて斬首されたが、末娘の福は後に春日局として徳川家光の乳母となった。

◆複数実行犯・複数黒幕存在説 ㉔

光秀だけでなく多くの実行犯や黒幕が関わっていたとする説。その中には羽柴秀吉や徳川家康、毛利輝元、信長の正室の濃姫、森蘭丸や光秀の妻がかかわったとする説もある。



明智光秀は、なぜ本能寺で主君・織田信長を討ったのか？

■暴君討伐説（信長非道説） ㉑

信長は気性が激しく、激情することが多く、天下統一を目指す過程で数々の残虐な行為を行った。

比叡山の焼き討ちでは仏に仕える僧侶はもとより女子供なども容赦なく殺し、一向一揆では農民など数万を惨殺した。また、敗れて自刃した武田勝頼の首を足蹴にしたり、近江六角氏の残党をかくまった恵林寺の僧侶を山門とともに焼き殺した。義に反することを平気で行う信長に対して不信感をもった光秀は、あまりの非道を許すことが出来ず、正義のために信長を討った。

◆朝廷黒幕説 ㉕

正親町天皇に譲位を要求するなど、朝廷の権威をないがしろにした信長を朝廷勢力が光秀を動かして討たせたとする説。

信長の朝廷に対する侵食攻撃が激しくなるのを懸念した朝廷勢力が光秀を動かして信長を謀殺した。

公家の日記である『日々記』をもとにした研究による説。光秀が公家たちにそそのかされたというよりも光秀と朝廷勢力の考えが合致した結果だったとも考えられる。

◆足利義昭黒幕説 ㉗

信長に敵対して朝廷を追放された元将軍の足利義昭が裏で糸を引いていたとする説。

信長に担がれて上洛し、将軍となった義昭だが、次第に信長と対立することが多くなった。信長打倒を画策したが失敗し、京から追われた義昭が光秀を使って信長を討った。義昭の御内書には「信長討ち果たす上は、入洛の義、急度馳走すべき由、」とあり、いかにも義昭が信長を討ったかのように読める。

◆フロイス(イエズス会)黒幕説 ㉙

宣教師やイエズス会などが黒幕であったとする説。

信長はイエズス会から資金提供を受けていたが、信長がイエズス会に逆らって自らを神格化したために、意に添わなくなった信長を暗殺した。

◆堺商人黒幕説 ㉚

信長から既得権を取り上げられた堺の商人達が信長殺害を計画したとする説。

信長は交易などで「自由・自治都市」として栄えていた堺に軍用金を要求した。堺は抵抗したが、信長の武力に屈服した。自治権や既得権を奪われた堺の商人達が黒幕となって信長の暗殺を謀った。